

# 広報 あしや

'73

第14号

小学校3年生～中学校3年生用

每学期発行



## あすの芦屋

□まちづくり計画のあらまし

(その2)

第1回は、市の将来像とみなさんが生活する舞台である土地の利用や公園緑地、海浜の埋立てなどについて説明しましたが、今回は、この地域に住むみなさんの生活を取りまく環境や日常の生活の問題を取り上げて市の考えをお知らせします。



## 市民生活(その一)

この計画では、「市民生活」といっても広く、みなさんが毎日生活している住宅をはじめ、それを取りまくいろいろな環境、すなわち、交通安全、ごみやし尿、保健衛生、医療、上・下水道、消費生活、こどもやおとしより、体の不自由なかがたの福祉、同和問題や年金など、また、最近では自然保護がやかましくいわれているが、環境保全の問題、そのほか、商工業なども含まれています。本号では、交通安全、保健衛生、環境衛生、上・下水道についてお話ししましょう。

## 変わりつつある

# わたくしたちを取りまく環境

わたくしたちを取りまく環境は、大きく変<sup>かわ</sup>ってきています。

今から二十数年前、太平洋戦争が終わり、日本人は、たべものの不足に悩みながらいっしょうけんめい働<sup>はたら</sup>いてきました。

昭和三十年代にはいって、経済は急速<sup>けいそく</sup>に発展<sup>てん</sup>し、たべものや衣服<sup>いふく</sup>がたくさん出まわるようになり、テレビや電気洗濯機<sup>せんたくき</sup>、自動車<sup>くるま</sup>などがどんどん生活の中にはいりこんできました。

しかし、いっぽうでは、まちには工場や人が集まり過ぎ<sup>す</sup>たりして、生活環境がしだいに悪くなってきました。美しい水、きれいな空気、青い空は失われつつあり、緑や自然の破<sup>は</sup>

壊<sup>くわ</sup>が進んでいます。

また、機械文明<sup>きかき</sup>を代表するもののひとつ自動車<sup>くるま</sup>が毎年増加し、まさに交通戦争<sup>せんそう</sup>の名にふさわしく、全国では、毎日数十人がなくなっています。

人口の面では、おとしよりがふえてきており、昭和六十年には、十人にひとり、六十五才以上のおとしよりになります。また、こどもが大きくなりますと、親と別々に住む人が多くなっており、核家族<sup>かくかぞ</sup>が進んでいます。さらに、ひとびとの考え方も大きく変ってきており、とくに人と人のつながりがうすれ、さびしい生活の人がふえてきているのは大きな問題です。



大阪湾上からみた市街地 埋立地もできまちのようすも変わっていきます。

## よりよいすまいへ

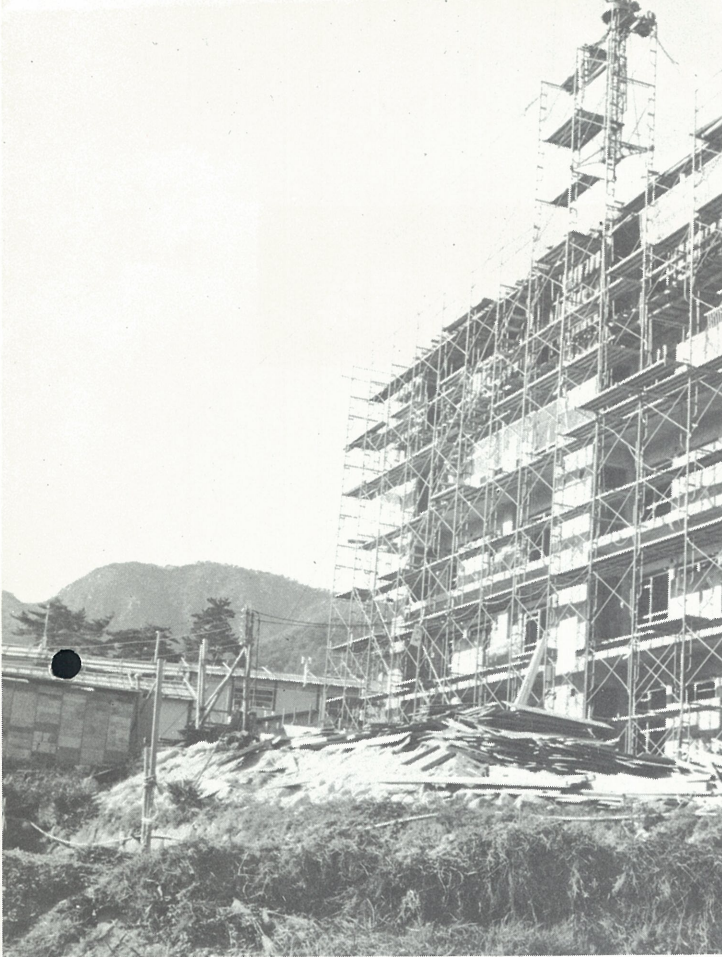
芦屋は、住宅のようすはかなり恵まれていますが、いま住んでいる住宅についてのみなさんご意見の調査（四十三年）では、五十割のカタが「困っている」と答えています。

その原因として、「家が狭い」が四十八割、「家が古い」というのが二十九割で、かならずしも満足できる状況とはいえません。

そのうえ、昭和四十年ごろからはマンションなど中・高層住宅が急速に建ち始め、日あたり、風とおし、見とおしや景色などがそこなわれ、いままでのよい環境が失われつつあります。

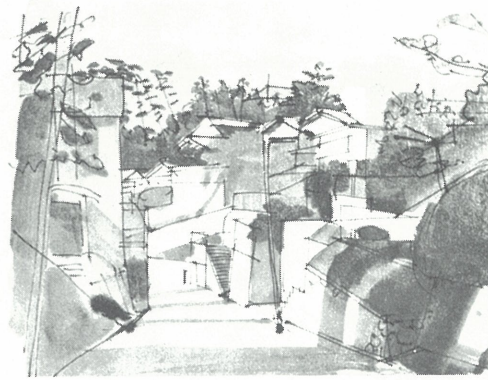
市では、みなさんによりよい住宅を建てていただくには、やはり、よい環境づくりを行なっていくことが重要だと考えています。

マンションなどの高層建物は、日



マンションも周囲と調和がたいせつ

あたり、風とおし、景色などそこなわれないように考えていくいっぽう、いままでの低層で環境のよいところでは、建物の高さを制限したり、指導を行なうて、なるべく、市民のカタが納得できるような方法をとって



いきます。

市では、木造の市営住宅の建替え、埋立地にはモデル団地を建設します。また、家族の人数や年代にふさわしい、住みかえのできる方法なども考えていきます。

また、おとしより、母と子の家庭、からだの不自由な方に適した住宅も

計画的に造っていきます。

## まちの安全

みなさんのいのちと財産を守ることは、市政の中でなによりもさきに考えなければなりません。最近、自動車、ガソリン、プロパンガスもふえ、住宅も集まりすぎたりして災害がおこる危険がふえてきています。

いのちの安全や財産は、みなさんひとりひとりの心構えやお互いの協力が大きな力になります。ひとりひとりが、安全に注意し、危険物や危険か所を常にしらべていただくことも必要でしょう。

### 〈交通安全〉

交通事故や交通公害の根本的な解決には、道路のしくみ（車の通る道と人の歩く道を分けること）、新しい交通のしくみや安全な自動車の開発などが必要です。

市としては、さしあたっては、歩道の整備、横断歩道橋、防護柵、道路反射鏡などの交通安全施設を整え

たり、駐車禁止や一方通行などのきまりを強めていくことにしていきます。

### 〈消防〉

高い建物がふえてきたり、新しい建物の使用など消火活動を困難にしています。

このため、科学的な消防力を充実するとともに、市街地の増大や埋立地による建物の増加にともない、山手地区に出張所を、埋立地には消防署を新たに設置します。

また、火災は、早く発見することが大事ですので、監視用テレビや無線などの通信施設を設けていきます。

今後は、人口がふえ、建物が建てこんでくるので、建物やまちそのものを燃えにくくするいっぽうではみなさんひとりひとりが、火災予防を生活習慣にしていたることが大切です。火災予防に対する知識を日ごろから身につけておいてください。

### 〈防災〉

日本は、昔から風水害、地震などの災害の多い国です。とくに芦屋市



安心です。スロープ式陸橋をわたる小学生

のある六甲山地は、土の性質から、くずれやすく、たいへん危険です。ところが、人口はどんどんふえ、いろいろな建物がつきつぎと建ち、あ

き地がだんだん減っています。もし、災害が起つたときは、大きな被害や混乱が考えられます。

### 〈防犯〉

芦屋には、大きな家が多く、静かな場所が多いためびつたりやあきすねらいが多いのがとくちょうです。このため、山では、木を植えたり、防犯工事をしたり、まちでは、下水道や公園緑地をつくったり、水路をつくりかえたりするほか、災害がおこったときに、みなさんが逃げる場所や道をきめていきます。みなさん

## 健康を守る

昔は、結核にかかるのと治らないものとされていましたが、ここ数十年来、栄養水準の向上や薬の発達によって、今ではそういうことはなくなり、結核にかかっているかたも非常に少なくなりました。

これに代わって、最近では、ガン、高血圧、心臓病などの成人病、そして精神障害や交通事故による障害がふえてきました。

医療面でも、以前は病気になるば、治せばよいということでしたが、



市民の健康を守る健康センター

今後は、予防（病気にからならないようにすること）、早期発見（病気がかかったら早く見つけること）、治療（病気を治すこと）、機能回復訓練（リハビリテーション）（交通事故、脳卒中などで治療が終了のち、手足などの不自由なところをなるべく元のようにすること）といった、「しくみ」を整えていかなければならないようになってきました。

市では、四十六年四月に「健康センター」を設立しました。このセンターでは、このような新しい考え方にそって健康を守るしくみをつくろうとするものです。そして、ひとりひとりのお医者さんでは、とっていきそろえることのできない高度な機械や器具を備えて、みんなが共同で使っています。将来は、市民の健康に関する記録や相談などもできるようになります。

このようにして、誰でもいつでも自分の健康や病気について、より正しい診断やそれに基づく治療が受け

られるようになるでしょう。

市には、朝日ヶ丘町に、「市立声屋病院」があります。この病院は、昭和二十七年に開かれてから、市民の健康を守ってきました。

今後は、医学の進みぐあいや、新しい病気にじゅうぶんこたえられるよう、建物をふやしたり、新しい機器をそろえていき、みなさんが安心して病気が治せるよう努力していきます。

### ごみ、上・下水道

最近では、いろいろな物がたくさ

んに回り、みなさんの生活が豊かになってきました。そのため、昔のよ

うに同じものをたいせつに長く使ったり、節約するということがなくなり、「使い捨て」がふつうとなりました。

このため、燃えるごみ、燃えないごみ、大型ごみ、産業廃棄物（工場などからでるごみ）がふえ、その収集や処理が大きな社会問題となり、「ごみ戦争」とまでいわれるようになりました。

芦屋市でも、ごみは、毎年ふえつづけ一日ひとりあたり、千グラム

をこえており、十年前の約二倍になっています。

そこで、将来十二万人分のごみを処理できるように、埋立地に新しい近代的な処理場をつくります。そして、焼却にともなう熱を利用して温水プールをつくることを考えています。

燃えないごみや産業廃棄物は、埋立てたり、阪神間で共同で処理する予定です。

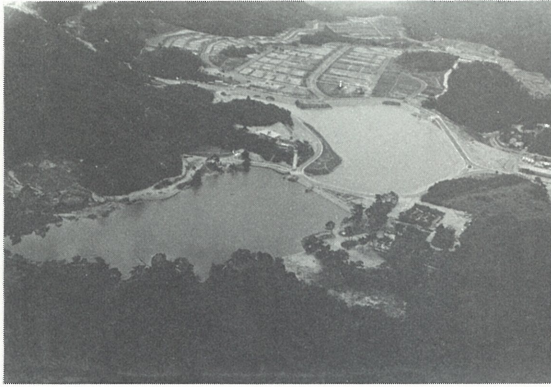
そのほか、高い建物のごみを集めるため、コンテナ方式を考えたり、駅の近くや、商店街などの人の集ま



美しいまちづくりに活躍する清掃車



カヤハエのいないまちづくりをしましょう



奥山貯水池（手前は奥池）

るところでは、朝早くか夜に集めることも考えています。

上水道は、わたくしたちの毎日の生活に欠かせないものです。

みなさんが毎日使っている水の約四十パーは、芦屋川や、奥山貯水池から取っており、残りは、「阪神水道企業団」からもらっています。

今後、市街地の人口増加や生活が豊かになるにつれて、ますます水が必要となってきます。

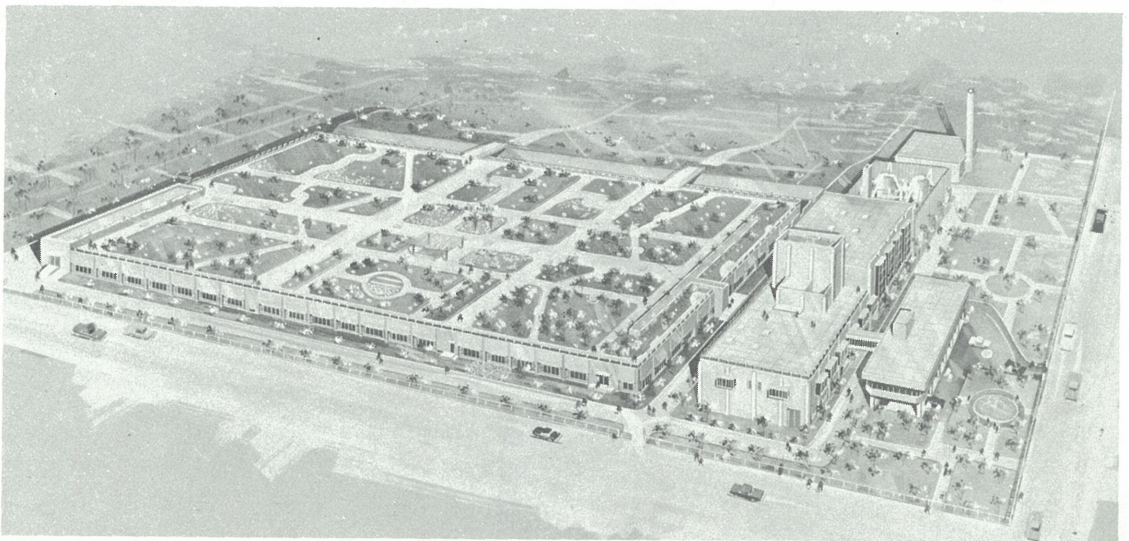
そのため、阪神水道企業団からさらに水を受けるいっぽう、国鉄新幹線六甲トンネルの湧き水をもらったりすることも計画しています。

下水道の整備は、日本では非常におくれています。このため、川が汚れたり、悪臭の原因になるなど、わたくしたちの環境を悪くしています。

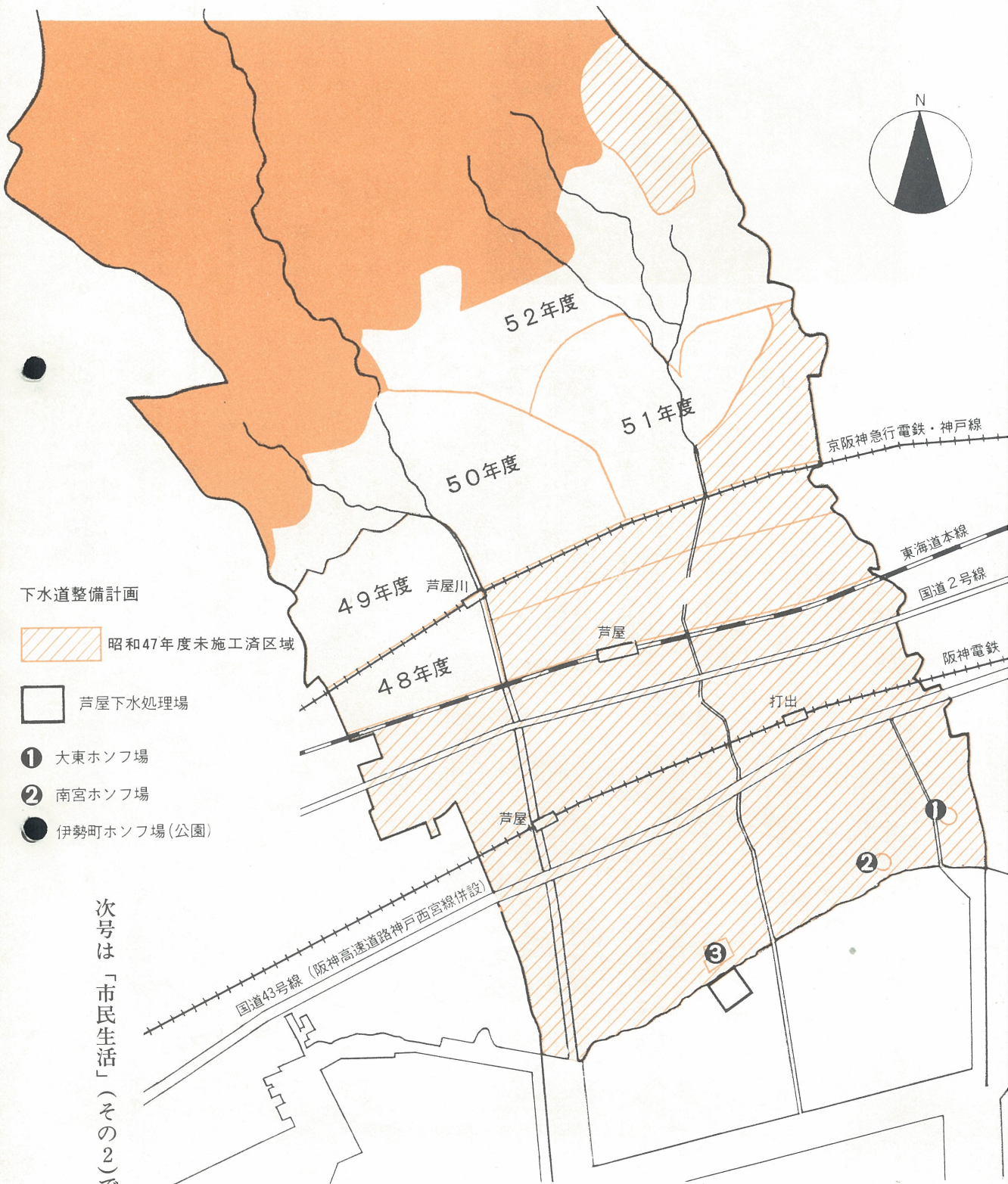
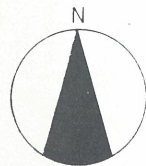
市では、少しでも早く下水道を完備し、清潔で快適なまちにしようと大変努力しています。

いま、埋立地では、近代的な下水処理場の建設を進めており、いよいよ四十九年一月からは、阪急以内では、簡易処理ができることになります。この下水処理場の進みぐあいにしたがって高級処理へもっていきます。

みなさんのご家庭の便所も水洗に切り換えていただくことになりますが、市では、そのための資金の貸付けや助成をして、みなさんのご協力によって少しでも早く百軒水洗化へ進めていきます。



緑地公園的下水処理場の完成予想図



下水道整備計画

昭和47年度未施工済区域

芦屋下水処理場

① 大東ホンフ場

② 南宮ホンフ場

● 伊勢町ホンフ場(公園)

次号は「市民生活」(その2)です